



『市民の顔が見える広報』を目指し、地域おこし協力隊がまちに飛び出て市民の皆さんをクローズアップ！  
今回は、今年もいよいよ開催される『第44回火まつり』の総合演出を長年担当されており、また『ひよっこ踊り』の生みの親でもある佐々木重昭さんに、火まつりへかける熱い思いを伺いました。

**僕達自身が一番『火まつり』を楽しんでいます（笑）！**

あかびら火まつり実行委員会  
『ステージクリエイト』主宰 佐々木 重昭さん

**火まつりに参加した経緯は？**

僕が最初に参加したのは、『第5回火まつり』のときでした。火文字を立ち上げた諸先輩の方から火文字点火のあとに会場です、まつりを盛り上げるための楽曲制作を依頼されたことがきっかけです。

**ひよっこ踊りのコンセプトは？**

ひよっこ踊りは、火まつりをさらに盛り上げるために作った曲です。徳島県の『阿波踊り』のリズムと『ロック』を融合させて『和』のテイストで作りました。制作した当時は、まだ阿波踊りのリズムが北海道に根付いていなかったこともあって斬新だったんです。踊りの振り付けは全くなくて、若者が思い思いに踊りだしました。リズムに合わせ楽しんで踊っている人達が増えていることが嬉しかったですね。

**演出する上で緊張する瞬間は？**

そうですね、やはり毎年『火文字』を点火する瞬間が一番緊張しますね。赤フロンランナーの到着から火文字を点火するまでの一連の流れのなかで、いかにお客さんに感動を届けられるかが大事なポイントなんです。当日のイベント進行中も、火文字点火を担当しているスタッフと密に連絡を取り合って準備しているの、無事に点火されたときは、ほっと一安心といった気持ちになります。

**やりがいを感じる瞬間は？**

火まつり会場で、子どもからご年配まで世代を超えて、みんなが笑顔で祭りを楽しんでいる姿を見るとやって良かったなって感じます。また、子どもが出店で大きく口をあけておいしそうに食べていたり、打ち上げ



一時期、演出方法で悩んだ時期がありました。それは、同じことを続けていくことに抵抗があったからだと思います。だけど、『まつり』はプログラムの内容を大きく変えずに続けていくことが大事だと気がきました。同じことを継続して行なわなければ、歴史や伝統は築けませんね。

られた花火や火文字点火の瞬間に聞こえる歓声を聞くと一気に疲れが吹き飛びます。これは僕以外にも、火まつりに携わっているスタッフ皆同じ気持ちだと思いますね。

今年も多くの皆さんに楽しんでもらえるように頑張ります！



現在、還暦野球ではピッチャーをしている佐々木さん。『仕事でなかなか試合に行けませんが、やっぱり野球は楽しいです』と笑顔で語ってくれました。



**編集後記**

地域おこし協力隊 まちの情報発信部門  
愛知県出身 野口 暢子



市内が着々と『火まつり』に向けて準備が進められています。先月号でもお伝えいたしましたが、今年は私も火太鼓の子ども達と一緒に参加させていただきます。是非応援よろしくお願いします♪